

ミッション・クリティカルな業務のための
ハイブリッド・クラウドの中核

IBM z15™

Model T01 / T02

クラウド・ネイティブ環境への対応
コンテナ・ベースの開発と展開

あらゆる場所での暗号化
エコシステム全体にわたるセキュリティと
データ・プライバシーの強化

短時間での回復
連続可用性と安全なワークロードの
大規模環境での提供

多様なお客様のニーズに
適合する設計
高可用性とオン・チップ・アクセラレーション
などの新しいオプション

最新の情報はこちらの Web ページをご覧ください

ibm.biz/ibmz-jp



クラウドを活用すると、柔軟性、俊敏性、そしてオープン性というメリットを享受できます。しかしその一方で、クラウドへ移行されている業務ワークロードは、まだ20%にすぎません。企業は、既存の機能、セキュリティの担保、プロセスやデータの可用性を損なうことなく、インフラストラクチャーをモダナイズしてクラウドに移行しなくてはなりません。

IBM z15は、ハイブリッド・クラウドへの統合により、クラウド基盤に次のレベルの強固なセキュリティと安定性をもたらし、お客様のミッション・クリティカルな要求にも対応できる最適なクラウド環境を実現します。

クラウド・ネイティブ環境への対応

高度なビジネス要件を満たす、複数のクラウド環境を組み合わせたハイブリッド・クラウドの採用が進んでいます。迅速なサービス提供と管理の実現には、クラウド環境にアプリケーションとデータを対応させた、開発者と管理者が利用しやすいクラウド・ネイティブなエコシステムが必要です。

IBM Zは、お客様のアプリケーション資産をAPI化して公開し、クラウド・ネイティブ環境に対応したアプリケーション開発者リードのセルフ・サービス運用を提供し、ビジネスに直結するサービスの迅速な展開を可能にします。また、Zoweに代表されるDevOpsソリューションにより、新しいクラウド・ネイティブ・アプリケーションの統合開発環境を提供します。IBM z/OS Container Extensionsは、オープンなコンテナ技術により、Linux上のアプリケーションを既存のz/OSワークロードと一緒に、高可用性とセキュリティを備えたz/OS環境で実行します。さらに、Linuxコンテナの操作を自動化するオープン・ソース技術であるKubernetesに基づくRed Hat OpenShiftプラットフォームや、コンテナ化しない仮想サーバーの管理を自動化するRed Hat Ansibleの利用により、ハイブリッド・マルチクラウド環境全体を集中管理し、最適化します。

多様なお客様のニーズに適合する設計

業界標準の19インチ・ラックを採用するIBM z15は、クラウド・データセンターに適した柔軟な筐体設計により、様々なビジネス規模やクラウドの構成の要件に対応できます。また、ビジネスの俊敏性と柔軟性をサポートするため、オンデマンド機能のオプションや、標準実装の暗号化や圧縮など特定の処理機能を提供します。

Model T01は、マルチフレームに対応し、必要な処理能力に応じて1ラックから4ラックまでの構成を選択できます。通常業務とバックアップ、冗長化構成などの要件に応じた構成を選択できます。Model T02は、シングルフレームでありながら2つのCentral Processor Complex (CPC) ドロワーを構成し、システムを停止することなくドロワーの保守ができます。また、IFLを最大65個利用できます。さらに、8Uもしくは16Uの筐体内オープン・スペースを構成し*1、自由に機器を入れて使用できます。

Tailored Fit Pricing for IBM Z: IBM Zソフトウェアの革新的な料金オプションです。クラウドのようにシンプルで予測可能な料金設定により、ビジネスの成長をサポートします。また、z/OSアプリケーションの開発・テストなど認定ソリューションに対する料金オプションを提供します。柔軟な導入方法と経済性を組み合わせ、新たなソリューションを開始できます。

ソフトウェア・サポート: 以下をサポートします*2 *3。z/OS V2.2以降のリリース、z/VM V6.4以降のリリース、z/VSE V6.2以降のリリース、z/TPF V1.1、SLES 12 SP4、SLES 15 SP1、RHEL 6.10、RHEL 7.7、RHEL 8.0、Ubuntu 18.04.1 LTS、Ubuntu 16.04.6 LTS、KVM *4

*1 開発意向表明。

*2 ソフトウェアのバージョン・リリース・レベルによってサポートされる機能が異なる場合があります。

*3 Linuxの推奨ディストリビューション・レベルや最新情報は、www.ibm.com/it-infrastructure/z/os/linux-tested-platforms をご覧ください。

*4 LinuxのサポートにはLinuxディストリビューションにより提供されるKVMハイパーバイザーも含まれています。

このカタログは、2020年4月当時の情報を基に作成しており、予告なく変更することがあります。数値で示す効果や改善はIBM社内の測定実績であり、実際の環境によって変化します。製品・サービスの詳細は、弊社またはIBMビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。

あらゆる場所での暗号化

ハイブリッド・クラウド環境では、システム内のみでなく、外部と連携するあらゆる環境で利用されるデータの保護が重要です。

IBM Zの全方位型暗号化は、高速のハードウェア暗号化機能により、アプリケーションの変更を必要とせず、パフォーマンスにもほぼ影響を与えず、ディスク上や通信中の全てのデータを暗号化します。IBM Data Privacy Passportsは、システム外にコピーされたデータを自動的に保護し、企業で利用する個人情報の漏洩リスクを最小化します。IBM Data Privacy for Diagnosticsは、外部に送信されるシステムの診断情報に含まれる機密データを保護します。IBMセキュア・サービス・コンテナは、Linux上のセキュアな稼働環境を実現し、マルウェアの導入による情報漏えいや特権ユーザーの誤用を防止します。安全なクラウド・アプリケーション開発を提供するIBM Cloud Hyper Protect Servicesは、この環境内にも展開できます。IBM Fibre Channel Endpoint Security (Model T01のみ利用可能)は、IBM z15と次世代のIBM DS8000ストレージ・ファミリー間の通信経路におけるデータの暗号化と保護を実現します。

短時間での回復

今日のデジタル時代では、企業システムは業務を遂行するためにほぼ完璧で中断のない連続稼働性を求められます。

IBM z15は、計画停止時間を極限まで短縮し、お客様へのサービス・レベル向上を追求しています。IBM System Recovery Boostは、システムの再起動と業務回復時の処理能力を一時的に増強することにより、停止時間を短縮し、業務停止の影響を軽減します。この機能は、システムの保守や変更、更改のための計画停止で利用でき、保守品質を向上するとともに、ビジネスへのサービス時間を改善します。また、ハードウェアによるデータ圧縮機能を標準で実装しており、より少ないデータ容量と通信量で大規模なデータ処理を行い、コスト削減に寄与します。z/OS Workload Interaction CorrelatorとNavigatorは、z/OSとミドルウェアの相互依存関係を示す豊富な分析用データの生成と、そのデータを直感的に分析するための新しい分析指標を提供します。この機能により、不具合発生時のシステム状況を素早く診断し、問題の切り分けに要する時間を大幅に短縮します。



日本アイ・ビー・エム株式会社

©Copyright IBM Japan, Ltd. 2020

〒103-8510東京都中央区日本橋箱崎町19-21

IBM、IBMロゴ、ibm.com、IBM Z、IBM z15は、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corp.の商標です。

他の名称は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。IBMの商標は、www.ibm.com/legal/copytrade をご覧ください。